

大祭司の系譜

大祭司は世襲制。エズラ記 7 章に記されている大祭司の家系を辿ってみると・・・

(1)アロン (出 6:20; 代一 23:13)

(2)エレアザル (出 6:23; レビ 10:1-7; 民 20:25-28; 代一 6:3)

ナダブ (死亡) (出 6:23; 代一 24:1, 2)

アビフ (死亡)

イタマル

(契約の箱は、約束の地が平定された時[西暦前 1467 年ごろ]からエリの時代までシロに置かれていた。

ただし、一時期ベテルに置かれていたこともある。—ヨシュ 18:1; 裁 20:18, 26-28)

(3)ピネハス (エホバはピネハスの家系の祭司職のための契約をお与えになる。—出 6:25; 民 25:10-13;

ヨシュ 22:13; 裁 20:27, 28)

(4)アビシュア? (代一 6:4, 5; エズ 7:5)

(5)ブキ? (代一 6:5; エズ 7:4)

(6)ウジ? (代一 6:5, 6; エズ 7:4)

(7)ゼラフヤ (代一 6:6; エズ 7:4)

(8)メラヨト (代一 6:6, 7; エズ 7:3, 4)

アマルヤ (代一 6:7)

アヒトブ (サムニ 8:17; 代一 6:7, 8; 18:16)

(この期間中は、イタマルの家系が職務を果たしたと思われる)

エリ (イタマルの家系の最初の大祭司; ヨセフスの「ユダヤ古代誌」, V, 361, 362 [xi, 5]; VIII, 12 [i, 3]

によれば、この人はアビシュアかウジの後を継いだ。代一 24:3 と比較)

ホフニ

ピネハス

(契約の箱がフィリスティア人に奪い取られた。エリとその息子たちが死んだ。箱は7か月間フィリスティア人の領土にあった。[サム一 4:17, 18; 6:1]箱は戻り、しばらくベト・シエメシュに置かれ、その後はダビデによるシオン攻略の少し後まで、幾年もの間キルヤト・エアリム[バアレ・ユダ]のアビナダブの家に置かれていた。—サム一 6:14, 15; 7:2; サムニ 6:2, 3)

イカボド (サム一 4:19-22)

アヒトブ? (サム一 14:3; 22:9)

アヒヤ (多分、アヒメレクの兄弟。シロの幕屋で仕えた。—サム一 14:3)

(ダビデが箱をエルサレムに運ぼうとして、ウザが打たれた。ダビデは箱をギト人オベデ・エドムの家に運んだ。箱はそこに3か月間とどまり、その後ダビデによってエルサレムに移された。—サムニ 6:1-11)

アヒメレク (ダビデを助けたため、ノブの85人の祭司たちがサウルの命令で打ち殺された時に死んだ。—サム一 21:1-6; 22:9-18)

アビヤタル (逃れて、ダビデに加わった。[サム一 22:20-23; 23:6, 9; 30:7]しかし後にアドニヤを支持し、ソロモンによって解任された。エリの家は大祭司の職を失い、サム一 2:30-36のエホバの言葉が成就した。

—王一 2:27, 35)

職務はエレアザルの家系に戻る

ザドク（ダビデの治世中は、「次位の」祭司だったのかもしれない。[王二 25:18; エレ 52:24 を参照。]アドニヤが王位を奪おうとした時、ダビデに忠節を示した。ソロモンによって、アビヤタルに代わる大祭司とされた。—サムニ 8:17; 15:24-29; 19:11; 王一 1:7, 8, 32-45; 2:27, 35; 代一 24:3)

（契約の箱はソロモンが新しく建てた神殿に置かれた。—王一 8:1-6）

アヒマアツ？（サムニ 15:27, 36; 17:20; 代一 6:8）

アザリヤ（1世）？（王一 4:2; 代一 6:9）

（代一 6:1-15 では省かれている次の3人の名、すなわちアマルヤ、エホヤダ、ゼカリヤが間にあると思われる）

アマルヤ（エホシャファト王の時代。—代二 19:11）

エホヤダ（アハジヤ、アタリヤ、エホアシュの時代。—王二 11:4-12:9; 代二 22:10-24:15）

ゼカリヤ？（エホアシュ王の承認のもとに石撃ちにされた。—代二 24:20-22）

ヨハナン？（代一 6:10）

アザリヤ（2世）（多分、せん越に行動したウジヤ王に反対した祭司。—代一 6:10; 代二 26:17-20）

（代一 6:1-15 では省略されている次の二人の名、すなわちウリヤとアザリヤが間にあるのかもしれない）

ウリヤ？（アハズ王の命令で、ダマスカスにあった異教の祭壇とそっくりの祭壇を築いた祭司。—王二 16:10-16）

(9)アザリヤ（2世または3世）（ザドクの家系の人；ヒゼキヤの時代に仕えた。上記のアザリヤ2世と同一人物か、あるいは同名の別人。—代二 31:10-13）

(10)アマルヤ？（代一 6:11; エズ 7:3）

(11)アヒトブ（ネヘ 11:11; 代一 6:11, 12; 9:11; エズ 7:2）

メラヨト？（この人は祭司でアヒトブの子孫だったが、大祭司としては仕えなかったかもしれない。—代一 9:11; ネヘ 11:11）

(12)ザドク(ツアドク)？（代一 6:12; 9:11; エズ 7:2; ネヘ 11:11）

(13)シャルム？（メシュラム）（代一 6:12, 13; 9:11; エズ 7:2; ネヘ 11:11）

(14)ヒルキヤ（ヨシヤ王の時代。—王二 22:4-14; 23:4; 代一 6:13; 代二 34:9-22）

(15)アザリヤ（3世または4世）？（代一 6:13, 14）

(16)セラヤ（西暦前 607 年にエルサレムが陥落した後、リブラでネブカドネザルに殺された。—王二 25:18-21; 代一 6:14; エズ 7:1; エレ 52:24-27）

エホツアダク？（西暦前 607 年にネブカドネザルによってバビロンへ流刑にされた。その息子エシュア[ヨシユア]や、もしかしたら他の息子たちも流刑期間中に生まれた。もちろんエホツアダクは、神殿で務めを果たすことはできなかった。—代一 6:14, 15; エズ 3:2）

（契約の箱は消失し、エルサレムに建てられた後代の神殿にはなかった）

流刑から帰還した後

ヨシュア（エシュア）（西暦前 537 年にゼルバベルと共に帰還した。—エズ 2:2; 3:2; ネヘ 12:10; ハガ 1:1; ゼカ 3:1; 6:11）

ヨヤキム？（ネヘ 12:10, 12; ヨセフスの「ユダヤ古代誌」, XI, 121 [v, 1]によれば、この人はエズラがエルサレムに帰還した時に職務に就いていた）

エルヤシブ (ネヘミヤの時代。—ネヘ 3:20; 12:10, 22; 13:4, 6, 7)

ヨヤダ? (ネヘ 12:10, 11, 22; 13:28)

ヨハナン (ヨナタン?) (ネヘ 12:11, 22, 23)

ヤドア? (多分, ペルシャ人ダリウスの時代か, その時代に「至るまで」。—ネヘ 12:11, 22)